

佐賀県内におけるヒノキカワモグリガ

— 被害のスギ品種間差異 —

佐賀県林業試験場 竹下 晴彦
 灰塚 敏郎

1. はじめに

ヒノキカワモグリガの被害は1970年頃から年々増加し¹⁾ 現在では県内各地に発生している²⁾。本害虫の被害は、地域の中でも激害と無被害林分が隣接しているものや、同一林分内でも単木的に被害、無被害がみられた。また被害の程度に非常に大きな差がみられる等の例が多い。

このことから、本昆虫に対する抵抗性品種の存在が想定されるところから、被害地域内に設定されているスギ品種見本林を調査し、被害度の多少に関する調査を行ったので報告する。

2. 調査方法

- 1) 場所 No.1 : 佐賀県藤津郡太良町 標高 450 m
 No.2 : 佐賀県藤津郡嬉野町 標高 400 m
- 2) 品種 No.1 : スギ品種見本林 13 品種
 No.2 : 九州産スギ品種現適試験地 8 品種
- 3) 方法 植栽配列図-1 の林分内において、各品種30本宛調査した。調査は地上高 2 m 以下の樹幹部にみられる本害虫の加害によるヤニ（樹脂流出）及びコブ（凸状小突起）の個数を計数した。

3. 調査結果

- 1) スギ調査林分周辺の被害状況
 両林分周辺のヒノキカワモグリガによる被害の程度は表-1 のとおりであった。
 No.1 調査林分周辺地域内では無被害林分は実生スギ

1 林分にすぎず他の林分はほとんど激害をうけており当地域は激害地域と判断できる。No.2 調査林分はアヤスギ林分がほとんどであり、約30%は無被害林分であり、被害林分でもほとんどが被害度も軽く、コブの量も少ないことから当地域は激害地と判断した。

表-1 調査対象スギ品種展示林周辺の被害状況

調査地番号	品 種	件 数	平均被害度	被 害 状 況								判 定
				ヤニ				コブ				
				0	少	中	多	0	少	中	多	
No.1	アヤ	4	4.5	1	2	1		1	3			激
	実生	2	0.5	1	1			2				微
	ヤブ	2	5.0			1	1		1	1		激
No.2	アヤ	24	0.8	7	16	1		17	7			微

注. アヤ：アヤスギ、実生：実生スギ、
 ヤブ：ヤブクグリ

2) ヒノキカワモグリガ被害の品種間差異

藤津郡太良町及び嬉野町の両地域内に設定されているNo.1 及びNo.2 両林分内のスギ品種別被害程度は、表-2 に示すとおり品種間に大きな差がみられた。
 すなわち、本数被害率は両林分ともアヤスギ、ヤブクグリが極めて大きく、ウラセバルは両試験地とも比較的小さかった。

No.1 調査林分													No.2 調査林分							
オ	オ	実	メ	タ	ヤ	ア	キ	イ	ク	実	ウ	コ	ネ	オ	タ	ア	ヤ	ヤ	ク	ウ
ビ	ビ	生	ノ	ノ	ブ	ヤ	ジ	ワ	モ	生	ラ	バ	ジ	ビ	ノ	ヤ	ブ	ク	モ	ラ
ア	ア	(メ	メ	ク	ス	ン	オ	ト	(セ	ノ	カ	ア	メ	ス	ク	ノ	ト	セ
カ	カ	太	ア	ア	グ	ス	ス	ス	オ	鹿	バ	ノ	ワ	カ	ア	ギ	グ	シ	オ	バ
		良	サ	サ	リ	ギ	ギ	ギ	シ	島	ル	ウ			サ		リ	マ	シ	ル

図-1 スギ品種の植栽配列

Haruhiko TAKESHITA Toshiro HAIZUKA (Saga Pref. Forest Exp. Stn., Yamato, Saga 840-02)
 Damage of *Crypiomeria japonica* D. Don Cultivars Caused by *Epinolia granilalis* Butler in Saga Prefecture.

一方の林分にのみ植栽されている品種では、ヤクノシマ、メアサなどの被害率が大きく、実生スギ、オビアラカワ、コバノウラセバル、ネジカワが比較的被害率が小さかった。

また、被害状況（コブ及びヤニの箇所数）はアヤスギ、ヤブクグリは両林分とも極めて多く、ウラセバル、タノメアサでは両林分とも比較的小さかった。

一方の林分にのみ植栽されている品種では、ヤクノシマ、メアサ、キジンスギが多く、実生スギ、オビアラカワ、ネジカワ、コバノウラセバルが少なかった。

4. まとめ

ヒノキカワモグリガによる被害程度は品種により差があると述べられている。今回激害地域の13品種及び微害地域の8品種について被害率及び被害状況を調査したが、品種による被害差について同様な傾向がみられた。このことから本害虫に対する抵抗性を有する品種が想定され、今後、林業的防除の基礎資料としての検索が必要と考える。

表 - 2 スギ品種別の被害

No.1 太 良						No.2 うれし野町					
スギ品種名	調査本数 本	被害本数 本	被害率 %	被害状況		スギ品種名	調査本数 本	被害本数 本	被害率 %	被害状況	
				平均コブ数	平均ヤニ数					平均コブ数	平均ヤニ数
ウラセバル	30	9	30.0	0.1	0.4	ウラセバル	30	3	10.0	0.1	0.1
クモトオシ	30	14	46.7	0.2	0.9	クモトオシ	30	15	50.0	0.2	0.6
アヤスギ	30	30	100.0	2.5	6.0	アヤスギ	30	23	76.7	0.4	1.3
ヤブクグリ	30	30	100.0	3.7	7.6	ヤブクグリ	30	28	93.3	0.3	3.2
タノメアサ	30	21	70.0	1.5	2.1	タノメアサ	30	8	26.7	0	0.3
実生（鹿島）	30	11	36.7	0.4	0.5	ネジカワ	30	6	20.0	0	0.3
実生（太良）	30	0	0	0	0	ヤクノシマ	30	27	90.0	0.6	2.9
オビアラカワ	30	0	0	0	0	オビアカ	30	14	46.7	0.1	0.6
オビアカ	30	14	46.7	0.4	1.0	傾斜：北，中腹～沢筋 調査地概況 林 齢：30年生 平均樹高：12m 平均枝下高：6m					
コバノウラセバル	30	10	33.3	0.1	0.4						
イワオスギ	30	16	53.3	0.4	0.8						
キジンスギ	30	18	60.0	1.0	1.5						
メアサ	30	23	76.7	0.5	1.8						
傾斜：北西，中腹～沢筋 調査地概況 林 齢：24年生 平均樹高：12m 平均枝下高：6m						参考文献 (1) 竹下晴彦ら：日林九支研論38，219～220 (2) 倉永善太郎ら：日林九支研論38，215～216 (3) 倉永善太郎ら：日林九支研論38，217～218					